

2020年アルミ業界重大ニュース

2020年12月25日

項 目	コ メ ン ト
①アルミ協会、「アルミニウムVISION2050」を策定	9月、アルミ協会はアルミ産業の将来構想を描いた「アルミニウムVISION2050」を策定。ビジョン実現のポイントとして「2050年のアルミ展伸材の循環使用率50%」「2050年のアルミのCO ₂ 削減率▲78%（最大）」「2050年のアルミの国内需要量の見通し602万ト」などの目標を掲げた。
②新型コロナウイルスの感染拡大、アルミ圧延品出荷減も急速に回復	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う産業界の停滞などにより、アルミ圧延業は大きな影響を受け、1-10月期のアルミ圧延品出荷量は昨年同期比▲11.1%。主要分野は軒並みマイナスとなったが、5月の▲23.5%を底にマイナス幅は縮小し、10月は▲1.5%まで回復。
③高速鉄道として世界初のアルミの水平リサイクルが実現	JR東海が7月から運行を開始した「N700S」の荷棚などの内装部品に、700系・N700系新幹線車両の廃アルミ材料が再利用。高速鉄道として世界で初めて「新幹線から新幹線へ」「展伸材から展伸材へ」の水平リサイクルが実現。このリサイクルには、2014年度から経済産業省実証事業やNEDO事業として取り組んだレーザーによるアルミ合金の選別技術が採用されている。
④アルミ協会、「アルミニウム圧延業界の温暖化対策長期ビジョン（2050年）」を策定	3月、アルミ業界としての長期の地球温暖化防止への対応の大方針として「アルミニウム圧延業界の温暖化対策長期ビジョン（2050年）」を策定。革新的な生産プロセスの実現により、展伸材製造時及び製品での貢献としてCO ₂ 排出量を削減する。
⑤アルミ協会、取引適正化自主行動計画を策定	9月、アルミ協会は金属産業取引適正化ガイドラインの内容踏まえ、取引適正に向けた自主行動計画を策定。価格決定方法とコスト負担の適正化、支払条件の改善、型取引の適正化等を推進する。
⑥資源循環プロジェクトの国プロ化	2019年度から先導研究を実施してきた「アルミニウム素材高度循環システム構築事業」の研究予算（3億円）を含む政府予算案が閣議決定され、国プロ化が決定。2021年度から5年間の予定で、展伸材におけるリサイクル材使用率50%の達成に必要な技術を開発する。
⑦アルミ協会、「アルミニウム技術戦略ロードマップ2020」を発行	7月、アルミ協会は「アルミニウム技術戦略ロードマップ2020」を発行。前回発行から2年経過し、その間のアルミ産業を取り巻く社会環境及びアルミ使用分野のニーズの変化、研究開発テーマの進展などを新たに盛り込んだ。
⑧石山喬元アルミ協会会長、旭日中綬章をご受章	11月、当協会の会長を2度に亘り務められた石山 喬氏（元 日本軽金属ホールディングス株式会社 代表取締役社長）が、アルミ産業の発展に寄与した功績により、旭日中綬章をご受章。

<p>⑨アルミ協会、「アルミ循環委員会」を設置</p>	<p>12月、アルミ協会は「アルミ循環委員会」を設置。需要分野毎の水平循環システムの構築等の5つの課題を解決し、「2050年に展伸材における循環アルミ（再生地金）の使用率50%」という目標を目指す。</p>
<p>⑩リチウムイオン電池向けアルミ箔、月間で過去最高を記録</p>	<p>リチウムイオン電池向けアルミ箔の1-11月期の出荷量は23,233ト（前年同期比：+21.2%）と好調に推移。10月は2,753トと過去最高を記録した。</p>
<p>⑪アルミ缶リサイクル率、97.9%と過去最高を記録</p>	<p>6月、アルミ缶リサイクル協会は、2019年度のアルミ缶リサイクル率が前年度比+4.3%の97.9%と過去最高になったと発表。UBC（使用済み飲料用アルミ缶）輸出が増加したことが背景にある。</p>